

岡本眸の冬の句

二学期の終る記憶に松立てり
初夢に何やら力出しきりし
冬深し急ぐを常の靴音も
考へを絶つ寒灯下過ぐるたび
帰り来て別の寒さの灯をともす

松岡隆子 抽